練馬区

「参加から協働へ」練馬ならではの住民自治の創造に向けて

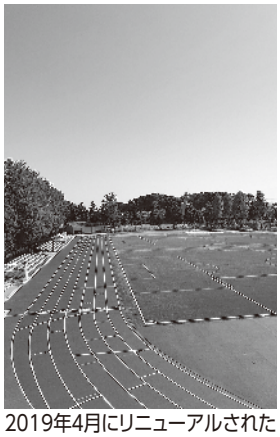
オリンピック開幕のちょうど1週間前にあたる2020年7月18日、聖火リレー隊列は練馬区を駆け抜け、セレブレーション会場である「練馬区立練馬総合運動場公園」を目指します。公園は2019年4月に全天候型舗装の400mトラックや人工芝グラウンドなどを備えてリニューアルされました。練馬区は、聖火リレーやセレブレーションの開催をはじめとして、区民との協働で東京2020大会を盛り上げるとともに、練馬ならではの住民自治の実現に向けて取り組みを進めています。

体験することから本当の理解が始まる

練馬区では、これまで東京2020大会に向けて数々のイベントを行ってきましたが、とりわけ大切にしてきたことは、区民に様々な競技～特にパラリンピック競技を中心に～を実際に体験してもらう機会を作るということです。体験することにより、競技の楽しさや難しさ、選手の技術の高さなど、本当の理解が始まります。2018年8月、区では、大会の開幕2年前に合わせて「夏休み親子パラリンピック競技体験会」を開催しました。親子が体験した競技はゴールボール、車いすポートボール、車いすリレーの3種目。それぞれの種目で、参加者はパラリンピックの魅力を体感していました。終了後、子ども達からは、「難しかった」「選手の人達は、すごい！」「障害のある人と一緒にスポーツができて楽しかった」という声が聞かれました。パラリンピック競技には、障害のある人も障害のない人も、誰もが一緒に楽しめる種目が数多くあります。子ども達は、パラリンピック競技の楽しさを体験会から感じ取っていたのです。体験会は、一部の種目を入れ替えて2019年にも開催され、全体で210組424人の親子が参加しました。これをきっかけに、パラリンピックに今まで以上に興味を持ち、東京2020大会のパラリンピックに特に注目して観戦することでしょう。

車いすポートボールを体験する親子

もう一つ、練馬区が大切にしてきたことは、国内外で活躍する選手と区民とが触れ合う機会を出来るだけ多く作るということです。本格的なプレーを見て、触れてもらうことで、区民に、オリンピック・パラリンピックに留まらない、スポーツ全般への関心を高めてもらうのです。2018年7月、区内体育館に、リオ2016パラリンピックの出場経験を持つ岩渕幸洋さんをはじめ、パラ卓球の日本国内トップ10の選手が集まりました。国内屈指の大会での優勝者と準優勝者である選手達に、大会の決勝戦を再現してもらったのです。優勝者は負けるわけにはいきません。一方、準優勝者にとっては恰好のリベンジマッチです。真に"ガチンコ"対決。試合の迫力は、観客を圧倒しました。試合後は、選手と来場の区民でラリーを行う体験会が開催され、参加者は「トップ選手とラリーが出来て感動した」と興奮気味に語っていました。2019年3月の東京2020大会500日前・ラグビーワールドカップ2019日本大会6か月前にあたり、練馬総合運動場公園リニューアル


2019年4月にリニューアルされた練馬総合運動場公園

オープンイベントに併せて「陸上トラック走り初め」等が行われました。ゲストアスリートの北京２００８オリンピック４００ｍリレー銀メダリストの朝原宣治さんが大歓声を受けながら、子ども達と一緒に１００ｍを駆け抜けました。この他にもゲストプレーヤーの元ラグビー日本代表キャプテンの菊谷崇さんが参加するラグビーのデモ試合などが行われました。同年７月には、「親子サッカー教室」が開催されました。ゲストとして、女子サッカー界のレジェンド・澤穂希さんの他、日テレ・ベレーザの選手を迎え、小学生と保護者のペア１００組２００名が澤さんたちの指導を受けました。参加した親子にとって、一流の技術を身近に触れることができる貴重な体験となりました。

ユニバーサルデザインのまちの実現を目指して

練馬区では、２０１６年から「ユニバーサルスポーツフェスティバル」を開催しています。このフェスティバルは、障害のある方もない方も、ともに気軽にスポーツを楽しむきっかけとして、相互に理解を深めることを目的とするものです。区内のスポーツや障害者福祉の各団体と協働で開催してきました。現在では、区内にある福祉施設のイベントを巡る「ねりあるきラリー」、誰もが楽しめる競技や演技発表をプールで行う「ノーマライゼーション水泳フェスティバル」、障害者施設や団体による製品販売や演奏などを行う「障害者フェスティバル」、国籍や年齢、障害などを越えたオーケストラと合唱による「Ｎｅｒｉｍａユニバーサルコンサート」なども開催しており、一連のイベントを総称して「ねりまユニバーサルフェス」と呼んでいます。様々なイベント会場では、東京２０２０大会を応援する「ハンドスタンプアート」も行われ、既に４万人を超える区民が参加しています。スポーツから始まった取り組みが分野を超えて、多くの区民が楽しむイベントに成長しています。区は、誰もが豊かなサービスを享受し、活動できるユニバーサルデザインのまちを実現することを目指しています。こうした練馬区の取り組みは東京２０２０大会ビジョンのコンセプトの一つ「多様性と調和」の実現にも大きく寄与しています。

誰もが楽しめる競技（風船バレー）

また、２０１５年から「練馬こぶしハーフマラソン」を開催しています。例年３月下旬に開催される大会は、区の木に指定されている「こぶし」と「桜」のトンネルを駆け抜け、練馬区の豊かな自然を感じることができます。毎年、５千人のランナーが参加し、沿道では１万５千人の区民が応援する人気の大会です。大会は、ランナーや区民からも高く評価されており、特にボランティアに対する評価は高くなっています。ボランティアは、スポーツ団体や町会・自治会など２千人を超える地域の方々で、ここでも区民との協働で大会が運営されています。

区との協働に加えて、区内では、区民や団体が「地域の課題」をともに考え、一緒に取り組む、自発的な協働の取り組みが生まれ始めています。練馬区は、「参加から協働へ」更なる深化を図り、東京２０２０大会に向けた取り組みもきっかけにしながら、区民や団体と区が協働することで、練馬ならではの住民自治の創造に向けて、さらに前へ進んでいくことでしょう。